提 供 日　2026/11/06

タイトル　景気動向指数は足踏みを示す～静岡県景気動向指数（令和８年８月分）

担　　当　企画部 統計活用課

連 絡 先　管理・普及班

TEL 054-221-2298

Well-Being 幸福度日本一の静岡県

（要旨）

令和８年８月分

１　景気の基調判断

・景気動向指数（CI一致指数）は、足踏みを示している。

・寄与度については、個人消費関係の百貨店・スーパー販売額、生産関係の輸入通関実績（清水港分）がプラスに寄与し、生産関係の鉱工業生産指数（総合）、人件費比率（製造業）（逆サイクル）等がマイナスに寄与している。

２　CIの各指数の変化

・一致指数は、２.4ポイント下降（２か月ぶりに下降）
・先行指数は、１.8ポイント上昇（４か月ぶりに上昇）
・遅行指数は、０.5ポイント上昇（３か月連続で上昇）

（注1）**CI(コンポジット・インデックス)**…主として景気変動の大きさやテンポ（量感）を測定することを目的としている。指標ごとの変化量を平均し、累積した上で基準年（令和２年）を100とした指数で表す。

（参考）直近6か月間の景気動向（本県及び全国）

		景気動向指数		参考：日本銀行	
年	月	静岡県	内閣府	最近の静岡県金融経済の動向（日銀静岡支店）	地域経済報告（日銀本店）
R8	8月	足踏み	改善	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	７月の東海地方は、「緩やかに回復している」
	7月	改善	改善	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	
	6月	改善	改善	非公表	４月の東海地方は、「緩やかに回復している」
	5月	改善	改善	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	
	4月	改善	改善	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	
	3月	足踏み	上方への局面変化	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	１月の東海地方は、「緩やかに回復している」

（概要）

１　直近6か月間のCI一致指数の推移

		R8年3月	4月	5月	6月	7月	8月
CI一致指数	単月	116.0	118.4	121.8	117.8	118.9	116.5
	（前月差）	△ 0.9	2.4	3.4	△ 4.0	1.1	△ 2.4
	3か月後方移動平均	116.8	117.1	118.7	119.3	119.5	117.7
	（前月差）	0.73	0.27	1.63	0.60	0.17	△ 1.77
	7か月後方移動平均	115.8	116.3	117.2	117.5	118.2	118.0
	（前月差）	0.13	0.51	0.82	0.31	0.73	△ 0.16
CI先行指数	単月	127.2	128.5	128.3	128.2	124.4	126.2
	（前月差）	3.4	1.3	△ 0.2	△ 0.1	△ 3.8	1.8
CI遅行指数	単月	115.0	115.3	114.9	115.5	117.1	117.6
	（前月差）	1.6	0.3	△ 0.4	0.6	1.6	0.5

２　CI一致指数単月の前月差（-2.4ポイント）に対する寄与度

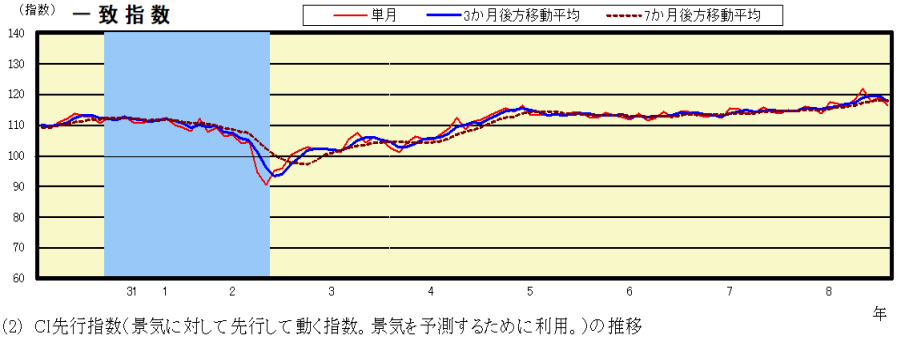
寄与度がプラスの系列	寄与度①	寄与度がマイナスの系列	寄与度②	①＋②
百貨店・スーパー販売額	0.51	鉱工業生産指数（総合）	△ 1.00	△ 2.4
輸入通関実績（清水港分）	0.38	人件費比率（製造業）（逆サイクル）	△ 0.90	
		鉱工業消費財出荷指数	△ 0.86	
		有効求人数（除学卒パート）	△ 0.35	
		第３次産業活動指数（総合）	△ 0.17	

3　CI各系列の年別推移

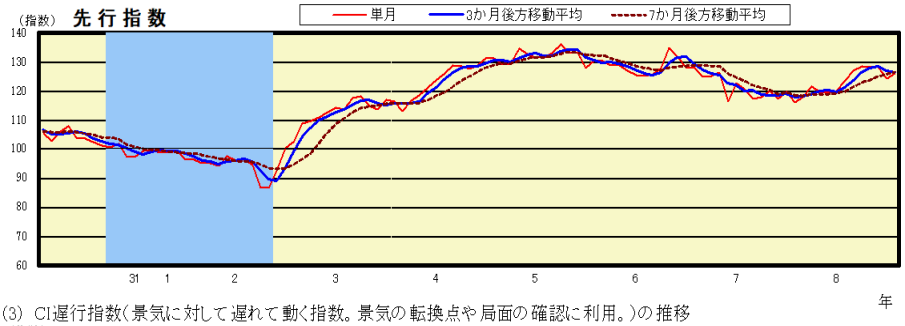
対象期間 :平成30年２月から令和８年８月

基　準　年 :令和２年

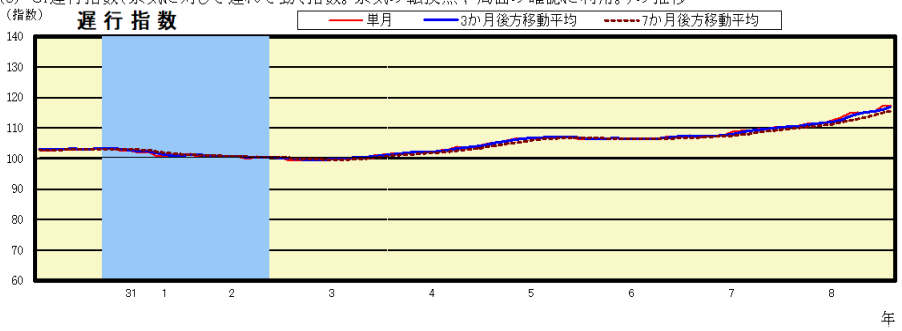
(1) CI一致指数(景気に対してほぼ一致して動く指数。景気の現状把握に利用。)の推移



(2) CI先行指数(景気に対して先行して動く指数。景気を予測するために利用。)の推移



(3) CI遅行指数(景気に対して遅れて動く指数。景気の転換点や局面の確認に利用。)の推移



基調判断		定義	基準
①改善		景気拡張の可能性が高いことを示す。	・原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇 ・当月の前月差の符号がプラス
②足踏み		景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す。	・3か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がマイナス
③局面変化	上方への局面変化	事後的に判定される景気の谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。	・7か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がプラス
	下方への局面変化	事後的に判定される景気の山が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。	・7か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がマイナス
④悪化		景気後退の可能性が高いことを示す。	・原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が下降 ・当月の前月差の符号がマイナス
⑤下げ止まり		景気後退の動きが下げ止まっている可能性が高いことを示す。	・3か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がプラス

標準偏差

前月差	2.20
3か月後方移動平均	1.16
7か月後方移動平均	0.79

※当月の基調判断は右文の注に該当　　注：①～⑤に該当しない場合は、前月の基調判断を継続する。

※各グラフの色付き部分は、景気の後退期を示す。

詳しくは「統計センターしずおか」(https://toukei.pref.shizuoka.jp/chosa/15-010/index.html)を御覧ください。

